

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 31 年 2 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

2 月	1 日	～	710 円/Kg
2 月	6 日	～	720 円/Kg
2 月	18 日	～	730 円/Kg
2 月	21 日	～	760 円/kg
2 月	26 日	～	770 円/kg

平成 31 年 2 月度は平均で 734.20 円/kg となり、前月比 41.50 円/kg の値上がりとなりました。

### 海外銅価の動き

2 月の LME 銅相場	2/1～ 2/28 (安値ドル 6,076.50～6,546.00 高値ドル)
2 月の NYC 銅相場	2/1～ 2/28 (安値セント 277.40～296.10 高値セント)

2 月度の LME 現物は、2/1 \$6,097.50 でスタート。1 日に発表された米経済指標の強い指標を受け、引き続きドルが買い戻された。投資家がリスクを取りやすい環境の中、LME 銅相場も \$6,000 台でのスタートとなった。経済状況としては、弱い中国の経済指標に加え、2/7 に発表された 12 月のドイツの鉱工業生産指数も 4 ヶ月連続の低下となった。一方、12 日、トランプ米大統領が中国との貿易協議に向け、交渉期限を延長し関税引き上げを見送る可能性を示唆。翌日には、“中国習近平国家主席が米国交渉団と 15 日に面会する予定がある”と香港紙が伝えるなど、両国の合意への期待が高まったものの、計画に具体性がなく一時的な上げ相場に留まった。その後も 1 月度の中国貿易統計は輸出では前年比 9.1% 増と発表され、未加工銅輸入も前月比 14% の増加と伝えられ、昨年 9 月以来の高い水準となった。ただ、その後発表された米経済指標は弱く、結局のところ米中の貿易協議の推移が大きなポイントである事には変わりはない。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 10 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,078	23,491	+1.8%	23,998	+2.2%	24,917	+1.9%
全世界地金消費	23,136	23,703	+2.5%	24,234	+2.2%	24,665	+1.5%
全世界需給バランス	-58	-211		-236		-202	

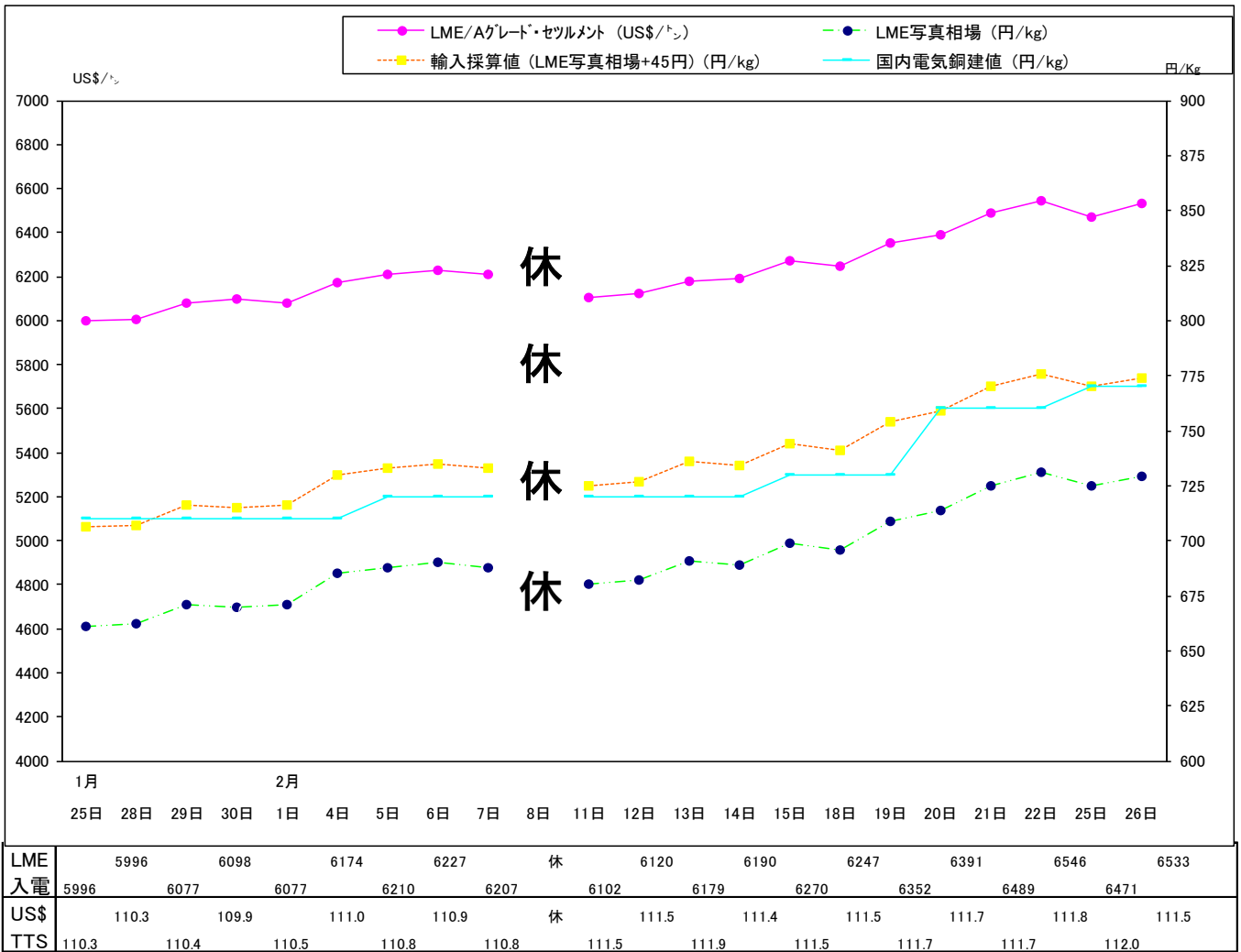
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

2 月度の国内建値は 1 日 710 円/kg でスタート。その後も LME 銅相場は経済指標としては安定感のない中、順調に上げモードとなった。為替もやや円高傾向の中、6 日 720 円、18 日 730 円、21 日 760 円とし、26 日には昨年 10 月以来の 770 円となった。

2/27 付 LME \$6,533.00、28 日付 為替 (TTS) 1USD=111.91 円で日本円換算計算値 731 円/kg。2019 年 3 月の国内電気銅建値のスタートは、変化のない限り 770 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成31年2月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 2月 1日 ~ 349 円/kg
- 2月 12日 ~ 343 円/kg
- 2月 20日 ~ 349 円/kg
- 2月 25日 ~ 355 円/kg

平均348.40円/kg

平成31年2月は上記の通りで前月比 19.40円/kgの値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	2月	291.00 円/kg	(前月比+ 13.00 円/kg)
電気錫 (相対)	2月	3,750.00 円/kg	(前月比+ 140.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	2月 市中価格	1,550.00 円/kg	～ 1,600.00 円/kg
銀	1月 平均	55,870.00 円/kg	(前月比+ 1,550.00 円/kg)
	2月 28日	57,500.00 円/kg	
金	1月 平均	4,552.79 円/g	(前月比+ 14.07 円/g)
	2月 28日	4,730.00 円/g	

◎ 伸銅品関係

平成31年1月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		12月度実績	1月度速報	前月比	前年1月度実績	前年同月比
銅	板	1,330	1,475	10.9%	1,117	32.1%
	条	21,357	21,120	-1.1%	20,800	1.5%
	管	9,346	8,367	-10.5%	9,017	-7.2%
	棒	2,108	2,035	-3.5%	2,155	-5.6%
	線	305	241	-21.0%	270	-10.7%
黄銅	板	564	432	-23.4%	503	-14.1%
	条	8,782	8,777	-0.1%	8,124	8.0%
	管	522	483	-7.5%	583	-17.2%
	棒	15,137	14,757	-2.5%	15,106	-2.3%
	線	2,461	1,968	-20.0%	2,168	-9.2%
青銅	板	2,341	2,105	-10.1%	2,670	-21.2%
	条					
	棒	244	200	-18.0%	204	-2.0%
	線	70	52	-25.7%	81	-35.8%
洋白・その他	板	495	404	-18.4%	555	-27.2%
	条					
	棒	30	40	33.3%	41	-2.4%
	線	418	344	-17.7%	379	-9.2%
合 計		65,510	62,800	-4.1%	63,773	-1.5%

1月の伸銅品生産速報は、62,800トンで前月比マイナス2,710トン、前年同月比-1.5%となり、前年同月比が2ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の18年11月分実績及び12月分推定によれば、11月分実績は、総計6万4千161tで前年同月比2.8%増加した。主力の建販が31,118tと高い数値を確保したうえ、自動車やその他内需も好調で10月とほぼ同様のトレンドを示し、総計は連続して伸長した。18年4月以降、9月を除けば上向き傾向で、建販と総計が連動している。

一方、12月の銅電線ケーブルの出荷推定では、建販が2万8千tで同0.4%の微増をキープしたが、電力や電気機械、その他内需など5品種が前年を割り込み、総計5万6千700tで同1.4%減と3ヵ月振りに減少。五輪や首都圏再開発用途はやや鈍化している。

結果18暦年(1~12月)出荷量は、総計が69万5千404tで前年比0.6%の微増に。自動車(同5.2%増)、建設電販(同2.0%増)、輸出(同2.8%増)の3部門が下支えした反面、電力、通信、電機機械の3部門は前年を割った。

また11月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは自動車、建販、その他内需の3部門。自動車は生産台数が戻り同13.9%増とし、建設電販も五輪、再開発が動いて同3.8%増で、その他内需も建設電販との連動もあり、同1.5%伸長した。

マイナスグループは通信、電力、電気機械、輸出の4部門。通信は需要の谷間で5.5%減少。電力は本調子には遠く同4.8%減。電気機械はFA・ロボット電線ケーブル需要が減速し同3.7%下降し、輸出もおしなべて低調で同48.9%減と半減する結果となった。

### 2018年11月分(実績)・2018年12月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	11月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	12月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	819	▼ 21.2	▼ 5.5	900	9.9	17.8	1,447	(▼14.3)	▼ 4.2
電力	(1,601) 4,548	(3.2) ▼ 0.7	(30.8) ▼ 4.8	(1,200) 3,100	(▼25.0) ▼ 31.8	(13.0) ▼ 0.4	1,191 5,488	(▼3.3) ▼ 0.3	(9.7) 5.2
電気機械	(423) 12,783	(▼12.1) ▼ 3.4	(▼5.8) ▼ 3.6	11,600	▼ 9.3	▼ 6.7	412 17,718	(▼11.6) ▼ 2.5	(▼3.3) 0.1
自動車	(143) 8,050	(41.6) 2.9	(58.9) 13.9	7,400	▼ 8.1	4.5	606 37,109	(49.3) 3.2	(55.8) 16.1
建設・電販	(21) 31,118	(110.0) ▼ 1.7	(▼22.2) 3.8	28,000	▼ 10.0	0.4	26 36,468	(116.7) ▼ 0.9	(4.0) 3.7
その他内需	(78) 4,616	(▼21.2) ▼ 6.0	(5.4) 1.5	(500) 3,900	(▼24.8) ▼ 15.5	(▼14.1) ▼ 10.6	73 7,557	(▼14.1) ▼ 9.4	(10.6) 3.4
内需計	(2,266) 61,934	(1.1) ▼ 2.0	(21.6) 2.4	(1,700) 54,900	(▼25.0) ▼ 11.4	(3.4) ▼ 1.3	2,308 105,786	(4.9) ▼ 0.7	(15.9) 7.0
輸出	(314) 2,227	(7750.0) 87.6	(7.5) 15.7	(100) 1,800	(▼68.2) ▼ 19.2	(1900.0) ▼ 2.6	150 6,138	(971.4) 2.8	(▼3.2) 10.3
合計	(2,580) 64,161	(14.9) ▼ 0.4	(19.7) 2.8	(1,800) 56,700	(▼30.2) ▼ 11.6	(9.2) ▼ 1.4	2,457 111,924	(10.9) ▼ 0.5	(14.5) 7.2
心線販売	(1,499) 33,834	(19.3) 0.0	(18.5) 4.2	(1,500) 28,700	(0.1) ▼ 15.2	(45.5) 0.0	410 24,678	(17.5) 2.0	(26.5) ▼ 1.7

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2018年11月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	4,083	4.5	▼ 11.0	3,448	▼ 7.7	▼ 15.9
巻線	11,908	▼ 4.3	▼ 1.6	12,872	▼ 5.0	6.0
機器用電線	3,863	▼ 0.5	2.2	11,001	0.6	0.6
通信用電線・ケーブル	1,533	▼ 6.1	▼ 6.1	3,467	▼ 6.2	▼ 2.3
電力用電線・ケーブル	24,029	3.8	5.3	25,597	2.9	9.1
被覆線	12,277	▼ 6.1	4.5	17,351	▼ 4.4	4.8
輸送用電線	6,468	2.2	12.4	38,189	1.8	13.3
銅電線計	64,161	▼ 0.4	2.8	111,924	▼ 0.5	7.2
EM電線・ ケーブル	76	▼ 7.3	▼ 2.6	256	▼ 8.2	▼ 5.5
	3,335	5.2	6.4	3,831	1.2	4.7
計	3,417	4.8	6.3	4,127	0.5	4.5
アルミ電線計	2,580	14.9	19.7	2,457	10.9	14.5
光製品	4,372,227	▼ 8.6	▼ 3.3	27,079	13.1	26.1
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,514	11.6	32.9

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週、第2週は、中国製造業PMIは48.3と弱い結果であった点に加え、世界最大の生産量を誇る虹橋グループが1月末の冬季減産解除によりフル生産に戻す意向を示したことにより軟調に推移。但し、減産見込み量は10万MTと市況への影響は限定的と思われる。また、EU圏の成長見通し引き下げや、米中通商協議の先行き不透明感からリスクオフムードが先行し欧米株の下落とともにアルミ相場も軟調に推移。第3週、米中貿易通商協議にて、改革要求に依然として大きな相違があるとの悲観的な見解が示されたリスクオフと、中国の1月アルミ輸出が過去最高を記録し、国内需要の弱さが懸念され値を下げる。第4週、英外相がEU離脱問題の議会で過半数の承認を得る自信を表明。独、スペインの外相もハードブレグジット回避の進展を示唆したことで、対ドルでユーロ高が進行し、非鉄相場全体を押し上げる。2月の米フィラデルフィア連銀製造業景気指数が、市場予想を大幅に下回る結果になったことでドル安が進行。シンガポール、マレーシアを中心に1.8万トンのキャンセルワラントが出ており、在庫減が継続していることからアルミ相場は上伸。最終週、英国のEU離脱修正案の議会可決、米朝首脳会議、米中協議期限等、政治的な重要イベントが多くあり、各報道には注意が必要。2019年のQ2のプレミアム交渉が始まり、前四半期\$27アップの\$112のオファーがあったとの報告の中、当面は\$1,920を中心にした展開の予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 2月積 1,964.00～1,972.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 2月積 232.70～233.70 円/kg
- ・NSP 2018年12月 275.30 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年1月～3月 290.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年12月	'19年1月	'18年1月
月生産	*2,358.0	2,335.0	2,368.0
平均日産	*76.1	75.3	76.4

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

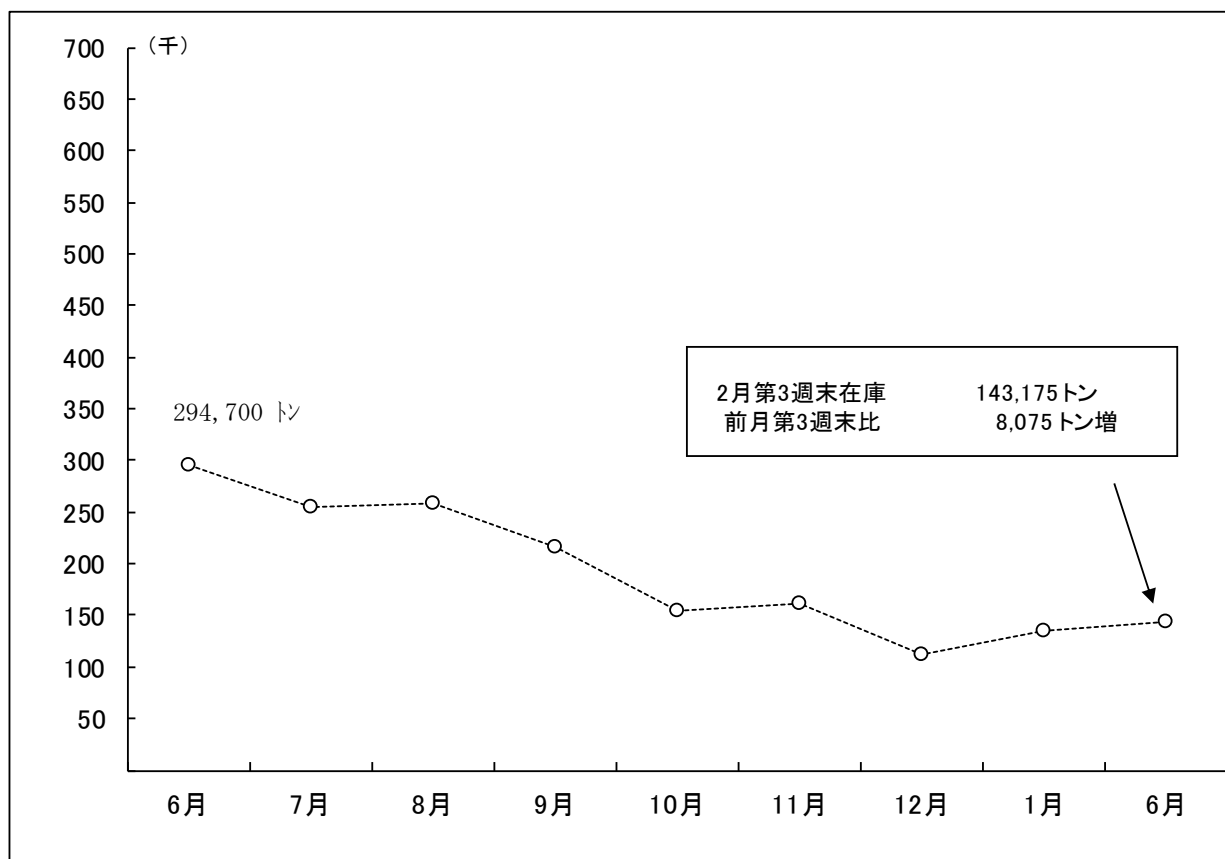
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年10月	2018年11月	増減	2017年11月	増減
横浜	155,500	145,200	-10,300	117,300	+27,900
名古屋	146,800	135,200	-11,600	102,600	+32,600
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	317,300	295,400	-21,900	234,900	+60,500

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 31年2月15日現在 70,245 S T 前月比 25,967 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年12月末 98,653 トン 前月比 19,693 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年12月確報 65,510 トン  
 ・ 31年1月速報 62,800 トン 前月比 95.4 %

◎ 電線出荷実績

・ 31年1月速報 54,500 トン 前月比 96.1 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 31年 1月	板 類	82,314 トン	
	押 出 類	60,497 トン	
		<hr/>	
		142,811 トン	前月比 89.3 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。